「Ｈａｍ博物館四日市」のご紹介 （ ＪＡ２ＥＳＲ 野口 茂 ）

開館日：１９９３年１１月３日

地域レベルでのアマチュア無線の健全な発展、活性化を図る目的で、約６年前に当局の自宅に展示室を増築しミニ博物館を開設しました。名前に「四日市」という都市名を付けたのは、全国の各都市に同じような施設が誕生する事を願って「地名」を入れました。

１． 開設のきっかけ

２５年位前から主に真空管式受信機のコレクションをしてました。開局３０年を迎えた頃、何か記念になることをしたいと思ってました。その頃にはリグも５０台程度集まったので、開局３０年を記念してリグの展示室を作ろうと、思い立ったのが事の始まりです。

２． 開館までの道のり

どうせ開設するのなら自分が集めた分以外に、ローカル局で不要なリグがあったら寄贈をしてらおうと、お願いの手紙を１５０通ほど発送。リグだけではなくアマ無線に関する書籍等も、ついでにお願い。
結果は予想以上の反響があって沢山のリグ、書籍を寄贈いただいて、ミニ博物館ながら何とか恰好のついた展示物が並びました。

更に展示室の諸々の準備作業には、延べ２０人ものローカル各局にお手伝いをいただき、無事文化の日に開館の運びとなりました。このミニ博物館は私一人の力だけではなく、沢山の皆さんのご協力があって開館できたことを、是非知っていただきたいと思います。

３． 展示品

リグは昭和３０年代からの、主に真空管式のものを約５０台展示しています。一番古いのは戦時中に使われた旧日本軍の「飛一号受信機」で、５０年以上前の真空管の音が受信できます。
ＯＭにとって憧れのコリンズ、ドレーク、ヒースキットも展示しています。電源を入れて動作する状態で、展示をしているのが当館の特徴です。

書籍はＣＱ誌、ＱＳＴ等の内外のアマ無線雑誌、ＣＱ社のハンドブック、局名禄、真空管や半導体の規格表、リグ等の取扱説明書、JARLニュース等があり、大小併せて約3000冊の蔵書です。特にＣＱ誌は昭和の３０年から現在まで、４５年分をずらりと書棚に展示してますので、各種の調べ物には絶大な威力を発揮しています。またリグ、測定器等の取扱説明書も約３００種類程ありますので、必要な方にはコピーして実費にて提供もしております。
ここに来ればアマ無線に関することは、大体のことは調べることができるかと思います。

４． 現在の活動状況

数年前から自作の普及に力を入れております。具体的にはW製のＱＲＰ ＣＷトランシーバの基板キットを個人輸入し、皆さんに紹介をして自作してもらいました。単に紹介するだけではなく、２０頁もある独自のキット組立マニュアルを作り、製作上の質問にお答えしたりして技術的な支援も実施。

また自作がちょっと無理な年配の方には、トランシーバキットを代行製作しました。さらにケース等の付加部品一式の代行購入もして、自作の便宜を図っております。

このキットで自作した局は約４０局、代行製作は６台にものぼり、自作の喜び、楽しみを大いに味わってもらっています。これらのトランシーバーはJARL三重支部大会等の三重電信会のブースで、過去に数回ほど展示をさせて頂きました。

自作はアマ無線の楽しみ方の中でも大きな柱の一つです。自分で作った電波で交信ができる感激、感動を

是非沢山の局に知ってもらいたいと思っています。自作は経験して行く中で、色々な知恵、工夫を生かす体験ができる世界です。幸い当館には自作をするのに必要な回路図、ハンドブック、規格表等の資料が豊富に揃っています。またスペアナ、シンクロ、周波数カウンタ、デップメータ等の、アマ無線で必要な測定機も完備しております。自作支援の活動は、今後も地道に継続をしていく予定です。

５．「電子立国日本」への思い

話は少々脱線しますが、世界に冠たる「電子立国日本」の礎は、その中核は団塊の世代が担っていると勝手に解釈をしております。同時にアマ無線がこの礎に貢献した役割も、また大きかったと。なぜならこの世代は好奇心が旺盛な中高校生時代に、ハンダ鏝を握って無線機を作り、電子工作の面白さ、工夫する楽しさを身をもって体験しているからです。今の小中学生を見ていると、知恵も工夫も不要な、お金を出せば何でも手に入る世の中で育ち、自分の手で作る喜び、完成して動いた感動を体験しているかは疑問です。

この子達が将来日本の社会の中核を占める時代になった時「電子立国日本」は果たして存在しているのでしょうか。杞憂であってほしいです。最近、この私とまったく同じ意見を持つ人が居るのを知り、心強く思いました。

この為、小学生を対象にゲルマ・ラジオ等を題材にした、電子工作教室をやろうと計画しています。
そのため工作材料であるバリコン、バーアンテナ等の主用部品は、粗大ゴミ置場からラジカセ、ミニコンポ等を拾い集め、せっせと取り外しては集めております。取り外し後は金属部分とその他に分類し、再生ゴミに出して、埋立ゴミの減少に協力しています。

最近小学生の息子と一緒に、約４０年振りにゲルマ・ラジオを作りました。これら拾い集めた部品が、使い物になるかの検証です。結果は昔に比べて放送局の電力が何倍にもなっているせいか、大変良く聞こえました。皆さんも、今一度作ってみてはいかがでしょうか。新たな感動が生まれるかも知れません。

6. 部品、ジャンク類の中継基地

自作が盛んになるためには自作をしたい時に、部品がすぐ手に入らなければいけません。パーツ屋の廃業等で部品の入手が、年と共に困難になってきました。その為不要になった部品、ジャンク類の寄贈を、OMさんにはお願いしています。家を新築する機会に今まで持っていたリグ、部品、書籍を捨てる人は実に多いようです。まだまだ十分使える部品等がみすみす粗大ゴミに捨てられ、土の中に埋められてしまうのは誠にもったいない話です。

また粗大ゴミ置場に捨てられている故障したラジカセ、ビデオデッキ、ミニコンポ等にも、まだ使える部品が一杯詰まっています。見つけたら手に入れてもらう事もお願いしています。

そこで当館は不要な人から預かり、必要な人へ提供するという「中継基地の役割」を担っています。
現在まで当館に寄贈いただいたリグ、部品、書籍等は１４５人から約３６０件、それを必要な方へ提供した件数は約１２０件にもなり、十分その役割を果たしていると確信しております。今後も中継基地の役割は、力を入れて継続していきたいと思っていますので、皆さんの押入れに眠っているリグ、部品、ジャンク類がありましたら、是非寄贈をお願いします。

故障したリグでもケース、中の部品類は、まだまだ十分にお役にたちます。

7. 終わりに

開館以来、気が付いたら約６年の歳月が経ちました。しがない一介のサラリーマンが、自分の小遣いの範囲内でやっていることですから、やれる事はたかが知れています。しかし、やらないよりはやった方が増しでしょう、という精神で活動を続けております。

寄贈されたリグ、書籍類の整理、部品の整理等の作業も、まだまだ山ほど残っております。途中で頓挫しないよう、地道に活動を続けたいと思っていますので、皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

近くにお越しの節は、是非お立寄り下さい。